

お元気ですか

年金と暮らしの情報誌
1991秋季号

目次

- 巻頭インタビュー／長岡輝子さん——1
- 特集：老後はみんなの問題**
(男と女)のいい関係を考える——4
- 年金：厚生年金の手続き**——12
- 税金：消費税・地価はホントに下がる!?**——21
- 法律：事前チェックで日照妨害は防げる**——24
- 思い出の映画／『ローマの休日』——26
- 熟年入門講座／奥鬼怒湿原・紅葉の鬼怒沼と手白沢温泉——28
- 温泉：高峰温泉・湯の山温泉**——31
- 健康：痛風を撃退する**——34
- 中高年の食生活——36
- 草花茶話／あしたば茶



人と物のふれあいを求めて



千葉県・君津市

相川千代治さん(六十七歳)

教職生活が長かった相川さんの資料館には、貴重な江戸時代の教科書なども多い。

都会の喧騒をのがれ、豊かな自然に囲まれた山間の里。ここに全国でも稀にみる、日本人の生活の足跡を残した私設資料館があります。物との出会いを忘れず、人とのふれあいを大切に、館の主は相川千代治さん。

房総半島ののどかな景観に心を休めながら、今回の取材の目的地、君津市・笹へと向かいます。

東京からJR内房線・久留里線を乗り継いで約二時間半。終点の上総亀山は、その昔「上総の国・亀山郷」と呼ばれた、約一〇〇戸ほどの民家が集まる静かな山間の町です。

ここで生まれ育った相川さんが、私設資料館を建てたのは、小櫃中学校を最後に四〇年あまりの教職生活を終えた、昭和五十九年のこと。

自宅の敷地内に、退職金を投じて建てられた民家風の「相川資料館」は、二階建て総面

積約四〇坪ほどの立派な木造建築です。

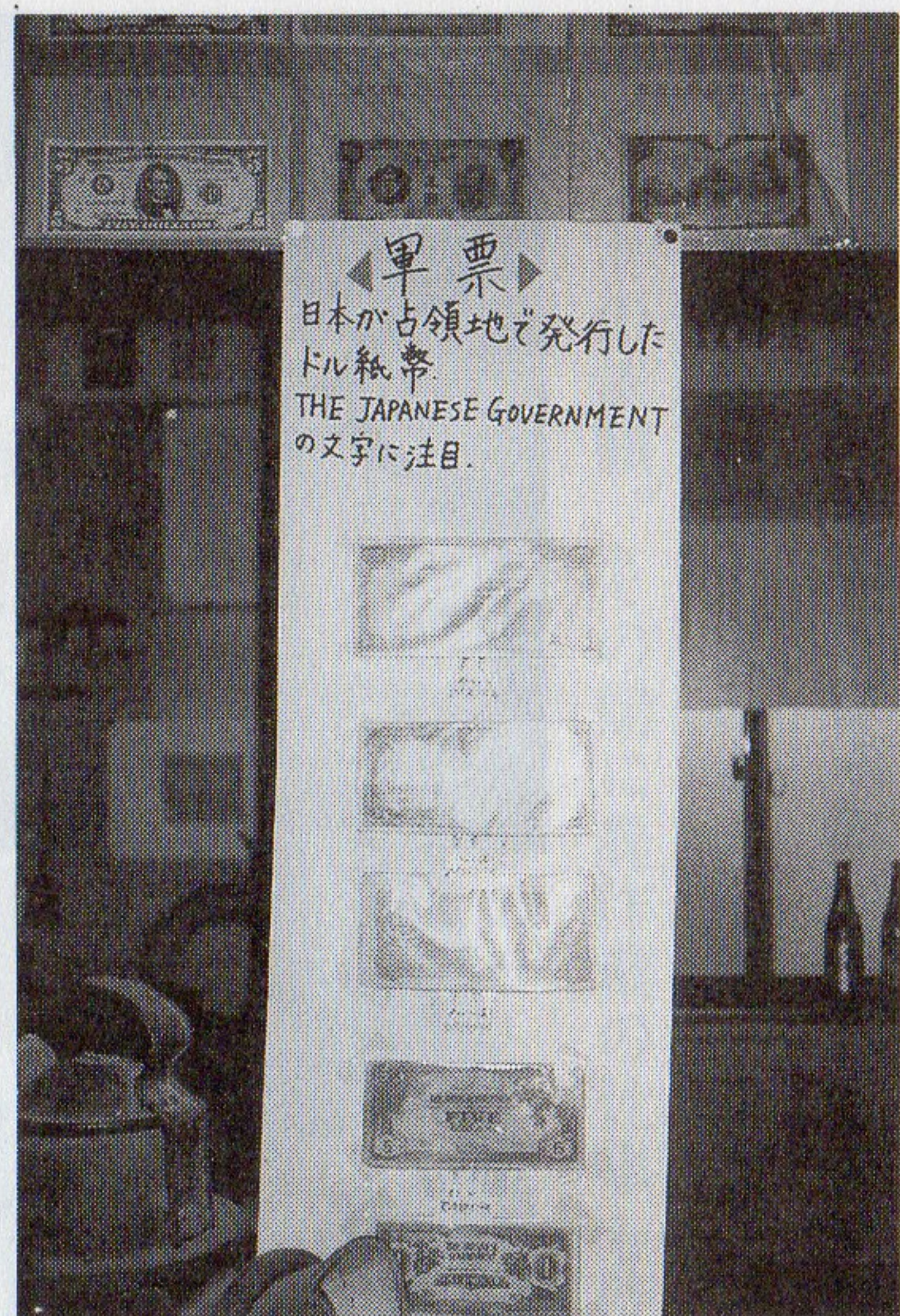
この中には、江戸時代から近年にかけて、私たちの暮らしの中に息づいていた、さまざまな身の周りの生活必需品がところ狭しと展示されています。

「今の若者たちに、昔の日本の物の良さを知ってもらい、物を通して時代の移り変わりを感じてもらえれば。あるいは、物を通して親子のふれあいがあればうれしいね」。

開館以来、噂を聞きつけて全国各地から訪れる人は、年齢も実にさまざま。ヨチヨチ歩きの子供は、昔のおもちゃを自由に手に取って遊んでいるし、老人クラブの団体で来た九十二歳のお年寄は、若い頃に習ったという漢学の書を見つけ、大喜びしながら得意げに読んで聞かせたりと、世代を越えて楽しめる一風変わった資料館です。

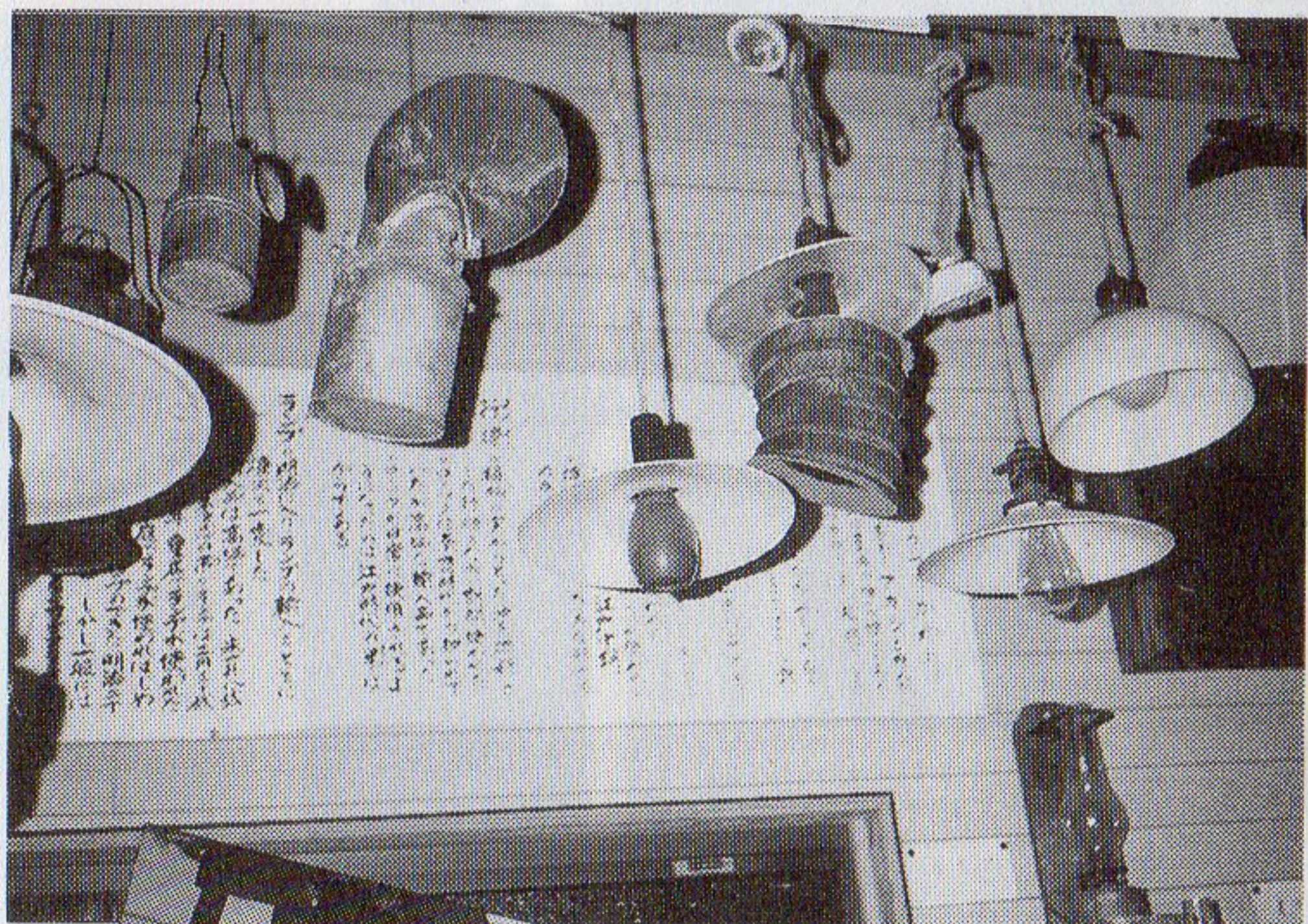
相川さんが物を集める事を意識したのは小学生の頃、明治時代に使われていた「穴のない五銭」がはじまりだったそうです。

今では、本人にもその数が分からないほど、ありとあらゆる物で埋めつくされています。江戸時代の有明行灯や箱枕、ランプ、ゼンマイ式蓄音機、昭和三十四年に発売された週刊誌の創刊号、十二・六メートルもある鯉のぼり、江戸時代の寺小屋で使われた毛筆の教科書「童学最初文章手引」、世界各国のコインや



戦前・戦中の戦争の記録もたんねんに残っており、あらためて考えさせられる。





切手、南極の石 etc.



ほとんどが身の周りの生活の道具。ひとつひとつさわって体感できるのがうれしい。

「もっとテーマを絞ってみてはと言う人もいるが、テーマのないのが私流。遊び道具にしても、火鉢ひとつにしても、身の周りの物すべてが、何らかの形で自分という者を支えてくれた事に感謝する。そうするとやはり、どれをとっても大事な物なんです。」

相川さんの人柄と資料館を軸に、人の輪は広がり、日本だけでなく海を越え遠くブラジルからの来館者もある。「この地域に、日本とブラジルを結ぶ交流組織があつて、日系三世、四世の子供たちが自分たちのふるさとをたずねて、ここを訪れるんですよ。みんな実に快活でね。これがその時の礼状です」と、大切にファイルされた子供たちの手紙の山を、う

れしそうに見せてくださいました。

来日した時には、一緒に浦和のデイズニールランドで遊んだり、相川さん宅に泊って家族の方との食事の団らんがあったり、心のふれあいを喜んでいる様子が伺えます。「今度は三〇人ほど来るっていったなあ」と、来年のお正月に来日する子供たちとの再会が、今から楽しみだとおっしゃいます。

相川さんと「ふれあい」の歴史は長く、それは教職時代にまでさかのぼります。

昭和十九年、県の師範学校（現・千葉大）を卒業後、教職の道へ。その後小学校三〇年、中学校一〇年と四〇年年間、教育者として大切にしてきたのが「体験学習」でした。「竹馬や竹トンボなど昔ながらの遊び道具を

作ったり、カリキュラム以外に自然観察キャンプもしたね。薪割りから始まって御飯炊きまで、引率の先生と子供たちだけでやるんだけど、ものすごく時間がかかるわけ。すると引率の先生が「こんな状態じゃ、ほかの勉強が出来ません」と言うんだけど、私は「何言ってるんだ。これが勉強じゃないか、一日中御飯炊きの勉強をしてもいいじゃないか」とね。あるいは餅つきをやって、みんなでつきたての餅をほうばったり、おもしろいもんだよ」

教職時代のこの経験は、何でも手に触れ体験できる資料館となつて、今も相川さんの心に生きています。

資料館創設以来テレビ・雑誌のインタビュー、教育関係・郷土史の本の編集、講演会・イベントの依頼。その間に農作業の仕事も待っています。本当にいつ休むのかと心配するほどの忙しさ。

その元気の秘密は「ふつうの生活をする」と。食べたい時に食べて……これといった鉄則なんてありませんよ」と、さりげない。「ただ、これだけはいけないね」といながら、銀のキセルでおいしそうにタバコを口に。

とても六十七歳とは思えないエネルギーの源は、何といっても、人と人との語らいとふれあいを、心から楽しんでいることにつきるようです。

●フレッシュ実年 / ただいま現役



全国から訪れる人とのふれあいが楽しいという相川さん。今も歴史に息づく生活用具を上手に使いこなしている。

「相川資料館」

▼入館無料。私設資料館のため開館時間は電話で確認を。

▼久留里線「上総亀山」駅下車、車で5分。

▼千葉県君津市笹九六二

▼☎〇四三九（三九）二三五二

